

報道関係者 各位

平成 29 年 6 月 2 日

【照会先】

医政局 歯科保健課 歯科口腔保健推進室

歯科口腔保健専門官 本田 和枝

推進係長 奥田 章子

代表電話 03(5253)1111(内線 2553)

直通電話 03(3595)2205

「平成 28 年歯科疾患実態調査」の結果（概要）を公表します

はちまるにいまる
～8020 達成者は 2 人に 1 人以上で過去最高～

厚生労働省は、このたび、平成 28 年 10 月～11 月に実施した「歯科疾患実態調査」の結果（概要版）を取りまとめましたので、公表します。

この調査は、わが国の歯科保健の状況を把握し、今後の歯科保健医療対策を推進するための基礎資料を得ることを目的としています。また、昭和 32 年から 6 年ごとに実施していましたが、平成 24 年に策定した「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の中間評価にあわせ、今回の調査から調査周期を 5 年に変更しました。

今回の調査結果では、80 歳になっても自分の歯が 20 本以上ある 8020（はちまるにいまる）を達成した人の割合が、前回調査の 40.2%から 51.2%に増加していることなどが分かりました。

厚生労働省は、この調査結果を踏まえ、「8020 運動」を含む歯科口腔保健施策を今後も推進していきます。

<調査期間>平成 28 年 10 月 1 日～11 月 30 日

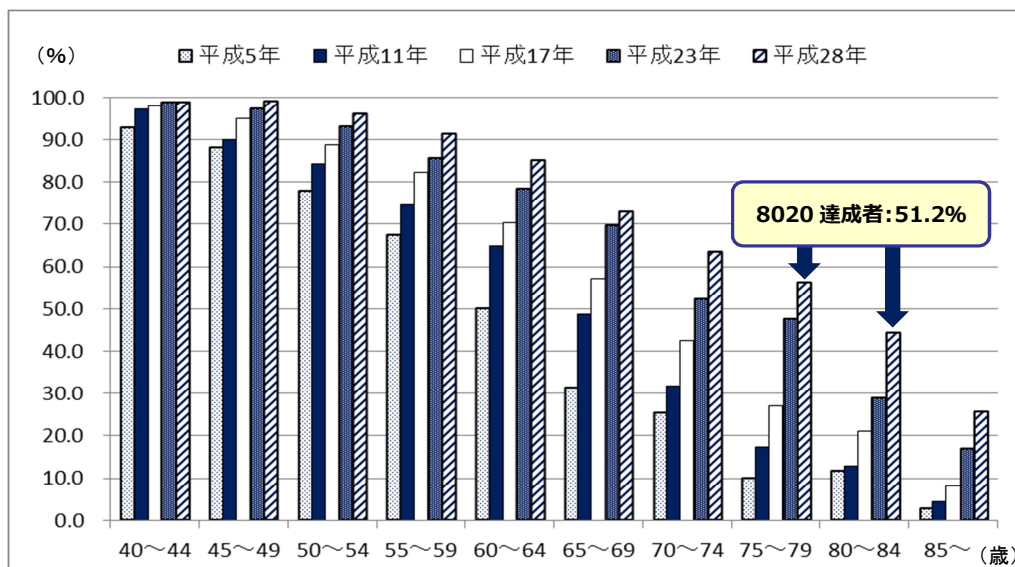
<調査対象>「平成 28 年国民健康・栄養調査」で設定された地区（平成 22 年国勢調査の調査区から層化無作為抽出した全国計 475 地区）からさらに抽出した 150 地区内の満 1 歳以上の世帯員（有効回答数は 6,278 人） ※熊本地震の影響により、熊本県の全域を除く

<調査方法>調査対象地区内の会場で、歯科医師が調査対象者の口腔診査を実施

【調査結果のポイント】※詳細は、別添の概要をご覧ください。

<歯の状況(20 本以上の歯が残っている人の割合)>

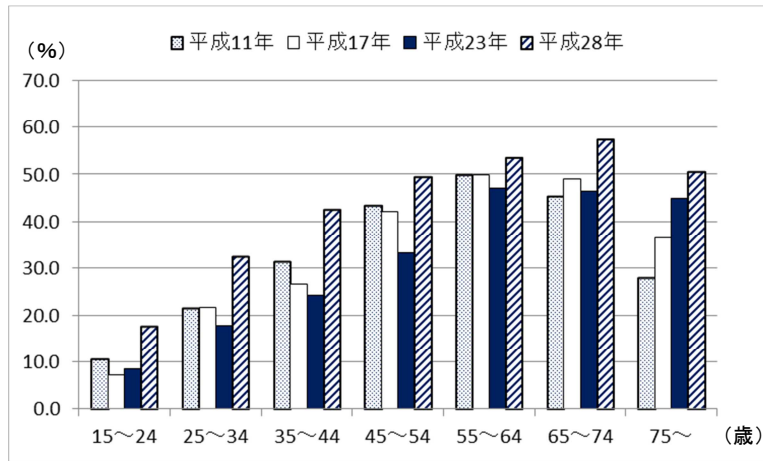
- ・ 8020 達成者(80 歳で 20 本以上の歯が残っている人の割合)は 51.2%であり、平成 23 年の調査結果 40.2%から増加している(8020 達成者は、75 歳以上 84 歳未満の数値から推計)。(18 ページ 表 17、図 17)



6月4日(日)から10日(土)までの1週間は「歯と口の健康週間」です。

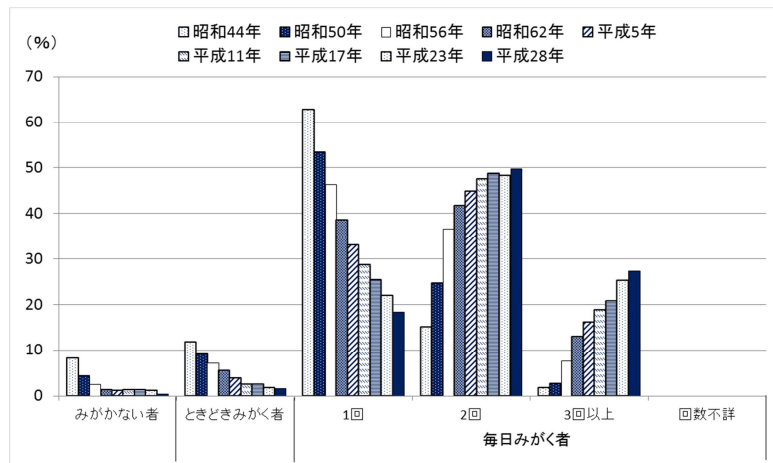
<歯肉の状況>

- ・ 4mm以上の歯周ポケットを持つ人の割合は、高齢になるにつれ増加している(22ページ表21、図21)。



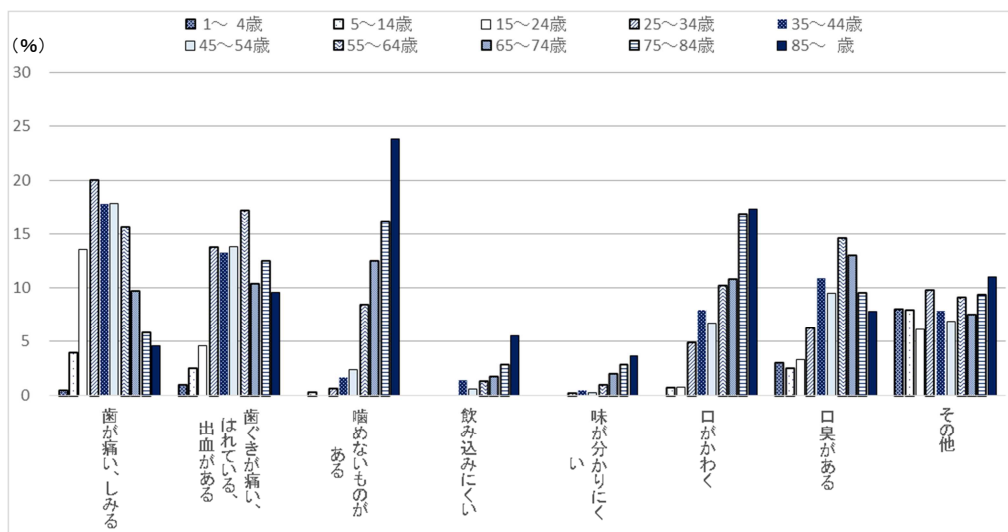
<歯をみがく頻度>

- ・ 1歳以上の人では、毎日歯をみがく人の割合は95.3%であった。また、毎日2回以上歯をみがく人の割合は増加を続けており、平成28年は77.0%であった(31ページ表30、図30)。



<歯や口の状態>

- ・ 歯や口の状態について、「歯が痛い、しみる」または「歯ぐきが痛い、はれている、出血がある」と回答した人の割合は、25歳以上65歳未満の年齢階級で高く、「噛めないものがある」と回答した人の割合は、65歳以上75歳未満の年齢階級で10%を超え、その後の年齢階級でも高値を示した。(35ページ表34、図34)。



6月4日(日)から10日(土)までの1週間は「歯と口の健康週間」です。